

新しい春日市のリーダーへ

停滞か、前進か。

かわさき

英彦

ひでひと



Vote
for Love

みんなで作る
春日の未来



新しい春日市のリーダーへ。

6期24年でどれだけの課題が解決されたのか。市民の声に耳を傾けない市政の歪が出ています。継続で7期目を許すのか、それとも新しい春日市で前進するのか。そのことが今問われています。

政治は何のために？市民一人ひとりの声に耳を傾け、市民の皆様が、春日に住んでいて良かったと思えるまちにすることこそ政治の役割。残念ながら今の春日市には多様な市民の意見を反映する仕組みがありません。

30年前から春日市の渋滞解消は市民最大の願いでした。福岡市、那珂川市、大野城市、隣接する自治体の幹線道路は拡張され、春日市だけが渋滞を起こしています。渋滞による時間的損失や排気ガスの環境負荷は計り知れません。

指定管理者の収支報告書が黒塗りになる。市民や専門家などの第三者がない内部だけの事業評価。西鉄春日原駅やその周辺の賑わいづくりについて未だに未来図すら描かれていない等、市民の声に耳を傾けていないことが要因です。

これからの超少子高齢化時代、しがらみのない多様な意見が新しいアイデアを生み、新しい春日市をつくっていくのです。

職員の声を聴き、提案を募り、人材とデジタル変革でコストダウンと時短を実現します。市民の皆さんと向き合う時間を大切にします。

春日市が持つ強みを活かし、春日市を前進させます。

川崎 英彦

めざせ！ウェルビーイング（健康と幸福）日本一のまち

子どもから大人、おじいちゃん、おばあちゃんまで、
11万人の春日市民みんなが、健やかで、幸せなまちづくり

かわさき英彦 プロフィール

経歴

1962年6月26日生 かに座 A型
春日市立春日小学校卒
春日市立春日中学校卒
福岡県立春日高等学校卒
東京造形大学デザイン学科卒
1996年 デザイン事務所(有)ライトニック設立
2012年 珈琲ショップ「森のルーチェ」開店
2015年より春日市議会議員(2期)、総務文教委員
福岡県立春日高校 同窓会会長

家族

妻・久美子長男、次男、三男、四男

地域活動

岡本公民館館長(2003・2004年)
春日市岡本地区自治会会長(2012～2014年)
奴国の丘サマーキャンプ実行委員長(2013年～現在)
春日市子ども子育て会議委員(2013・2014年)
中学校・高校での社会人講話(2017年～現在)
おはなし会 読み聞かせ(2018年～現在)
岡本地区 朝の見守り活動(2012年～現在)

地域活動 対話で学ぶ幸福学

幸福の国デンマーク視察後に始めた月イチ勉強会「対話で学ぶ幸福学」は58回を数えました。幸福度世界一の国からは「未来はこども達がつくる」「対話は新しい価値を生み出す場」など、幸せの秘訣や真の民主主義を学び、幸福度日本一を目指しています。



停滞か、
前進か。

p3 より住みよい春日市を実現するための3つの最優先政策 かわさき英彦の60の具体策

p5 - さらなる信頼「役所」づくり

p7 - 地域住民が主役の地域づくり×「健康」「幸福」

p9 - 子どもたちの未来づくり

p11 - 安心・安全・健康のまちづくり

p12 - すべての春日市民がワクワクするまちづくり

p13 - すべての人に優しい暮らしづくり

より住みよい春日市を
実現するための

3つの 最優先政策



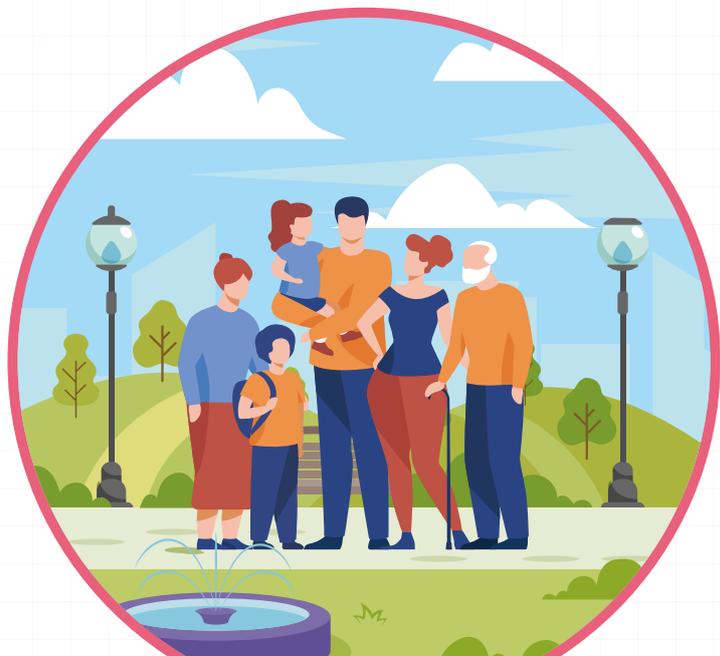
**市民最大の懸念、
主要道路の渋滞解消**

東西南北の隣接する計画道路はすべて整備され、春日市での渋滞は恒常化しています。時間的ロスだけでなく環境への影響も大きく温暖化の原因にも。1期4年で解決手段を決定します。



高齢者にやさしいまち

今まで日本の高度成長を支えてきた高齢者の皆さんには、いつまでも健康で長生きしていただくために地域通貨と交通系ICカードを組み合わせせた「健康ポイント」をプレゼント。



異次元の子育て支援

日本の将来を担う子どもと子育て世代を全面的に支援、中学生の全員給食と高校生までの医療費無償化で健やかな育ちをサポート。白水大池公園をスワンポート・BBQ やグランピングで春日市の大濠公園に。

情報公開、市民参加・参画

さらなる信頼「役所」づくり

「知恵」は市民の中にある。その「知恵」をどう引き出すのか、徹底した「情報公開」と多様な「市民参画」の場をつくり出します。また、職員の専門性と効率向上に努めます。

001

黒塗り文書をなくす

春日市は1983年、全国に先駆けて情報公開条例をつくった先進地。「春日市情報公開検討委員会」と「情報公開推進会議」を設置し制度を見直します。

002

生活者起点の行政計画＋行政評価

身近な生活者である市民が、計画の素案づくりから参加し、専門家と市民で、その成果を定期的に点検するようにします。

003

生活者起点の予算編成

予算編成過程がブラックボックス化されていて、市民の意見が反映されていない。予算編成プロセスを公開し「予算編成市民検討会議」を設置し予算編成過程をオープンにします。

004

365日いつでも、どこでも 市民や市職員と対話

多世代、多様な市民との対話の機会が少ない。ショッピングモールでの対話、ランチミーティング、オンライン対話、庁内に「対話による共働スペース」を創る。また、市職員からの提案を重視し、その情報を開示します。

005

市役所の1階にオープンスペースを 設け市長室も1階に移動させる



006

「ともに考え、ともに作る」 かすが市民参加型合意形成 プラットフォーム

共働き世帯、通勤者や新住民、若者等の声が市政に届きにくい現状を掲示板（チャット）機能を持つオンラインツールで様々な市民からのアイデアや意見を募集。

007

職員の潜在能力を活かす 人材マネジメント

職員の能力をさらに活かすために「職員提案制」や異動申し出「庁内公募制」の導入します。また自主研究グループへの支援、職員や部課の挑戦や成果を称える「春日市職員アワード」を設置。

「市民と職員に時間を返す」自治体DX

008

デジタルファースト (ICTイノベーション)の推進

スマートフォンによる各種申請・窓口業務のオンライン化。24時間対応可能な「AIチャットボット」を導入。約3200時間、約1300万円の軽減。業務の効率化と職員の働き方改革、庁舎を訪れることが難しい年配者や共働きの子育て世代障害者への負担軽減。

009

かすがウェルビーイング(幸せと健康)・ スマート・シティ

AIやICTの新技术を活用した、人が住みやすい都市推進課の新設。デジタル活用は、役所内にとどまらず、教育、医療、健康、まちづくり、スポーツ、地域経済、災害等、様々な分野での活用が期待できる。産官学民連携で、実現のための研究、サポートを行う。



民間活力



010

住民間活力で、稼ぐ！ インフラ(公共事業)

公共施設を新たに作る際、ランニングコスト(管理運営費)は、初期費用(建設費や器具等)の3~5倍。建設と運営の公民連携で民間が稼げる公共施設をつくる。

011

ふるさと納税の増収

PR強化を中心に、市のロゴマークのデザインの見直し、ふるさと納税品の徹底した差別化など、大胆なプロモーションを展開します。

目標：約5億円(2022年)→10億円(2026年)

012

公共の広告、 ネーミングライツ(命名権)

アプリ広告、HP、職員パソコン、給与明細等の広告収入。公衆トイレや道路、公園等のネーミングライツ等で収入。(目標：年約700万円)



市民参画、市民共働、コミュニティ

行政や他の市民たちと力を合わせながら、自分たちが担い手となるための新たなルールと仕組みが必要。新しいコミュニティのあり方を市民参加で協議し条例を策定。

地域住民が主役の地域づくり×「健康」「幸福」

013

「市民参画」「共働」「コミュニティ」活動推進条例の策定

行政や他の市民たちと力を合わせながら、自分たちが担い手となるための新たなルールと仕組みが必要。新しいコミュニティのあり方を市民参加で協議し条例を策定。

014

コミュニティ運営協議会の発足

地域コミュニティは、福祉・健康、生涯学習等の拠点として重要性が増しているが、少子超高齢化等、自治会では対応できない状況もある。「コミュニティ運営協議会」を中学校区単位で設置。

015

地域分権の推進

公園管理、防災訓練、防災パトロール等市が行っている業務の中で、地域コミュニティが行うことで大きな効果が生まれる事業は地域に移譲し、「地域活性化推進事業費」として補助します。公用車や市の備品も貸し出します。

016

地域にいきいき集まろう！通いの場

高齢者と幼児と親との世代間交流の場のスペースづくり、子どもの居場所づくりに空き家や空き店舗を活用します。

017

やりがい いきいきコミュニティ（地域）ビジネスの創出

空き家ビジネス、放課後保育の委託、寺小屋事業等、地域課題を解決するためのコミュニティビジネスをつくっていきます。（目標：関わった人の年収 30 万円以上アップ）

018

コミュニティスクールへの財政強化

コミュニティ・スクール活動を効果的なものとするためには、学校の創意工夫を生かした様々な取り組みが可能となるような財源が必要。校長裁量予算の拡大。

019

かすが市コミュニティスクール連絡協議会の立ち上げ

市全体で目指す姿の共有化を図ります。優秀な取り組みに対して、「かすがコミュニティスクール賞」を設けます。



防災

020

今こそ災害に強い地域づくり

情報を迅速に住民に届ける、市独自のアプリ「かすが避難情報発令支援システム」を導入します。

021

防災無線を学校、公民館等公共施設に配置

超高速のネットワークで接続する地域公共ネットワーク「地域イントラネット」の整備。



022

校区を超えた防災訓練や各自治会間の「防災パートナー協定」

023

隣接する自治体との「防災協定」

024

防災担当と介護予防、子育て担当等が連携した防災体制づくり



025

若者と地域の共創推進事業

県立春日高校、九州大学、福岡女学院、精華短大等で学ぶ学生が多く、若者の力を地域のまちづくりにつなげます。地域住民と共同で「春日わかもん会議」を行い、企画し地域プロジェクトを予算化。

若者参加

026

高校生の地域内インターンシップ

NPO・ボランティア団体の社会活動や自治会やコミュニティ・スクールの地域活動、企業の社会貢献活動に、高校生を対象に、主催者教育の一環として行う。



日本の将来を支えるのは、今の子ども達。
その子どもが、健やかに育つための施策を充実させます。

子どもたちの未来づくり

027

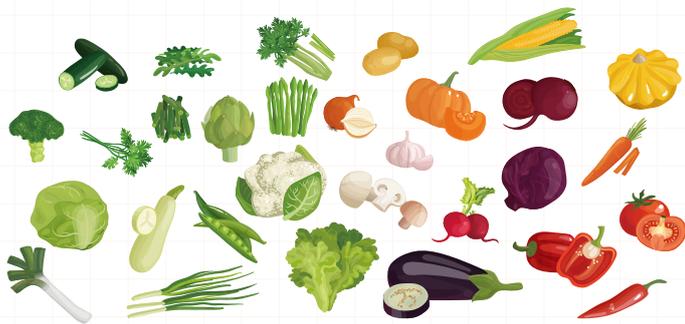
医療費窓口負担の無償化

子育て世代の負担が年々増えてきています。15歳から18歳に引き上げ、高校卒業まで、所得制限や自己負担を設けず無償化。

028

全中学校の学校給食を オーガニック給食＋ スーパー食育スクール

昼食選択制の中、欠食の存在がある。格差や貧困が広がる中、誰もが栄養バランスの取れた給食を摂ること、同じ料理で食材や農業について共に学べる環境をつく地産（県内産）地消で厳選された食材を使ってオーガニック給食を提供。食育開発プログラムを開発する国が推進するスーパー食育スクール認定校をつくる。



子育て

029

子育て支援総合相談窓口 「かすが版ネウボラ

（フィンランド語で相談の場）」の開設

子育て相談をどこにしたらいいかわからないという子育て世代が増えている。妊娠期から就学前保育・幼稚園の相談、就学等について、様々な子育て支援サービスについて総合相談窓口を開設。

030

駅前送迎 保育ステーションの開設

郊外の保育園に向けての送迎や一時預かり施設としても需要は高い。主要駅前に開設し、市内の認可保育所、届け出保育施設などへ安心・安全のバスで結び、登園・降園をサポート。

031

不登校児童生徒の居場所づくり

年間 300 人以上の不登校で苦しむ子どもたちが無理なく通うことができるフリースクール(不登校特例校)やフリースペースを創設、相談・支援窓口も新設。



032

公立塾「春日立志塾」の開校

国が進める GIGA スクール構想は、学校や教諭間で意識やスキルの差がある。子供たちに「生きる力」「生きる知恵」などを身につけさせる教育の機会が少ない。ICT をフル活用し、遠隔授業や TV 会議、タブレットを用いた習熟度別学習。自己実現のため、地域や社会の課題を解決する。

033

子供の学ぶ権利としての「学校選択制+小・中一貫校の導入」

春日市には、12 の小学校と 6 の中学校があるが、校区制により近くに学校には通えず、通学の際の安全・安心に不安がある。また、中学校ギャップによる不登校児が増えている。「学校選択制導入検討会議」を開催し、まずはブロックを決めて実験的に導入。できるところから順次実施。

教育



034

図書館や公共施設に学習スペースを

春日市の公共施設には勉強するスペースがありません。図書館にもない。まずは図書館から学習スペースを設け、空いている会議室や研修室を利用し誰もが利用できる学びの場を提供する。

035

市内の 12 の小学校と 6 つの中学校と協議し、できるところから小中一貫校に順次再編

健康に関する総合的な普及啓発を行うとともに、未病コンセプトにもとづいた「食」「運動」「社会参加」を促進させます。

安心・安全・健康のまちづくり

036

おいしく食べて健康プロジェクト

健康に絡めて、契約農家からの厳選された食材で、健康食グルメでまちおこし。地産（県内産）地消で学校給食にも活かし、食育を推進します。

037

まちなかヘルスバレーの設置

産学官連携で「春日市食と健康推進協議会」を立ち上げ、街中に拠点となる「春日まちなかヘルスバレー」を設置。「食」と「健康」に関するリサーチ、研究、商品開発を行う。

038

健康促進ポイント（アプリ）制度の導入

春日市の高齢化率は年々上昇しており、市民による主体的な未病改善の取り組みが大切。健康の三大要素「食」「運動」「社会参加」に取り組んでいる市民に対し、ポイントを付与し、指定された市内の商店街、商業施設等の店舗や交通機関、公共施設利用料、介護、医療保険の減免等で使えるようにする。（最大年 5000 ポイント）

039

水と緑の憩いの場づくり

使われていないため池が多くある。地域住民との共働と市内外から募集したボランティアの手作りで整備をすすめ、その対価として、健康推進ポイントを付与する。

040

ちょっと走ってみよう！ 健康スロー・ジョギング、 サイクリングコースの整備

幹線道路の整備を行い、春日市を一周するジョギングとサイクリングコースをつくる。



041

公民連携で、 みんなの健康運動センター

子どもたちがボール遊びをし、高齢者がグラウンドゴルフやニュースポーツを雨天でも使える健康作りの場が少ない。コミュニティセンターとの複合施設として公民連携で整備。4年以内に着工。

042

長生きせんば！ 「ヘルステーション」の全地域展開

地域密着型の介護予防や医療のあり方が問われています。コミュニティセンターを核に、健康づくり推進員を配置、住民力で健康増進・介護予防。住宅医療や往診体制も整えます。

都市のデジタル化、データ連携

043

かすが人に優しい スマート・シティ構想

教育、子育て、健康、医療、スポーツ、まちづくり、商工業、災害等、今や社会生活をする上でデジタル化は必須。産官学民から英知を集め、社会問題を解決するための「かすが健康スマート・シティ推進協議会」を立ち上げ、研究、実践へとつなげます。

スタートアップ(起業)

044

スタート・アップ(起業)！ ビジネスプラン・コンテストの開催

起業家らの発掘と補助金の支給、受賞者の総合的な支援（助走・試行期間、新規事業の実験の場を提供・支援等）を行い、年3人の新規起業者を輩出します。

045

起業サポート拠点を設置

SOHO、ベンチャー企業と市内の企業、事業所間の事業連携チャレンジプロジェクト創出を目指し、街中に拠点となるインキュベーション（起業や事業創出をサポートする拠点）「春日ビジネス・チャレンジング・ハウス（仮称）」を設置。年3つの新規事業の創出。

にぎわい

046

高架下の新たな空間創り

福岡県が西鉄天神大牟田線（春日原～下大利）連続立体交差事業により鉄道が高架化され、高架化に新たな空間利用ができる。オープンカフェ、駅前保育ステーション、地産地消レストラン等、若者が集い、市民が楽しめるような空間を創出。

047

オクトーバー(10月) まちフェスの開催

クリスマスマーケットやジャズフェスティバル、グルメが楽しめるオクトーバーフェス等市内での賑わいとくつろぎを商工業者と協力して創り出します。

048

白水大池公園を 更なる憩いの場と集客施設を

商業施設とスポーツ合宿、公共施設を併設させた複合集客施設をつくります。また、手ぶらでBBQが楽しめ、貸しポートやグランピングなどでアウトドア体験ができるように、公民連携で整備・運営をします。(年間100万人の集客)

すべての春日市民がワクワクするまちづくり

春日市は、小さな面積のコンパクトシティで、インフラにかかる費用が少ない。その中に、春日公園、白水大池大池公園等があり、天神博多にも近く、住宅都市として機能的で住み良い環境にある。これらの利点を活かし、賑わいを創ります。

公共施設、公共サービス

049

ユニバーサル・デザインに基づく施設整備

公民館、公共施設、スポーツ施設などのバリア度をチェックし、必要に応じて段差の解消やエレベーター等を設置します。

050

再生可能エネルギーの地産池消

公共施設における再生エネルギー発電の設置率が低い等「ゼロカーボンシティ宣言」はしているものの具体策がない。新電力会社を立ち上げ、太陽光発電によるエネルギーや一般廃棄物によるバイオマス発電所等多様な再生可能エネルギーを調達。災害時も見据えて、動く蓄電池としてEV（電気自動車）を脱炭素型の地域交通モデルとして実験的に取り組み 2050年ゼロカーボン(CO2排出量0)達成します。

051

交通渋滞の解消

都市計画道路は域北部を中心に未整備区間があり、渋滞を招いている。渋滞の見える化や路肩転用車線の応接等早急に取り組みます。8年以内に解消。



働くママさん、パパさん男女共同参画

052

理解ある上司！イクボス宣言

仕事と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動の両立を充実させる働き方・生き方をするには、職場の理解が必須。春日市が率先して部下のワーク・ライフ・バランスを応援する「イクボス宣言」をし、市内の企業、事業所や団体にも広めます。

053

テレワーク「在宅勤務制度」の推進

育休、子育てしながら、介護をしながら、仕事ができる環境づくりが必要。市役所が率先してテレワーク「在宅勤務制度」を導入。企業、事業所、団体等に働きかけます。子育て中の職員には時短で働ける「自営型テレワーク推進事業」を立ち上げます。

子どもから大人、高齢者、障がい者、外国人、男女などの区別なく、すべての人が安全で安心な暮らしができるよう「すべての人に優しいまちづくり」(ユニバーサル・デザイン)に取り組みます。

すべての人に優しい暮らしづくり

054 産後ママお助け隊

産後直後（出産～80日）の生活は、日々変化の連続で、新米ママはとても不安です。また、どうしても産後すぐに仕事をしないとイケないママもいます。出産・育児の経験豊富な先輩ママを募集し、産後ヘルパー、ベビーシッター派遣事業を立ち上げます。

高齢者

056 高齢者乗車券や医療、 介護保険料減免等に使える 「健幸」ポイント

高齢者の介護、医療費は年々上がる傾向にあり高齢者の負担が増えています。健康ポイントで、医療、介護保険料を最大年5000円（5000ポイント）減免。スポーツや公共施設での利用料、バス運賃にも適用。

057 後期高齢者福祉医療費、 介護保険料の助成

障害者、ひとり暮らし、ねたきり・認知症、母子父子家庭の高齢者を対象に、支払った医療費の一部助成をします。介護保険料の減免は、一時的に収入が減少、災害で大きな損害を受けた人、新型コロナウイルスに感染し、重篤な傷病がある人、保険料段階が1～3段階の人、等を対象に、減免します。



055 ジェンダーフリーの実現

日本のジェンダーギャップは世界146カ国中120位と格差は大きい。市役所が率先してクォーター制を導入。クォーター制を導入する企業、事業所、団体はホームページ等でPR。女性の副市長の登用、女性管理職や女性の審議会メンバー50%を目指します。



058 交通弱者へのサポート

買い物や病院等へ行くのに交通手段がない高齢者が増えてきています。路線バスとコミュニティバス路線の再考と広域連携や複合型公共交通体系を整備。自治会バスの検討、福祉系交通サービス、スクールバスや民間の送迎バスの未利用時間帯の活用、官民のカーシェアリングなどで、全地域の足の確保。

059 生涯現役！いきいき高齢者の セカンドライフ支援

日本人の平均寿命が延びる中、多くの高齢者は元気で、高い就労や社会活動への参加意欲を持っています。シルバー大学の開設や企業やNPO・ボランティア団体が集う「シルバーマッチング交流会」等を開催。



060 高齢者いきいきサロン＋子育て・寺具小屋

独居老人の増加、孤独死等高齢者の孤独が社会的な問題となっています。自治会ごとの高齢者いきいきサロンに、子育て・寺小屋事業を推進することで、高齢者の生きがいの場をつくる。

私たちもかわさき英彦さんを推薦します！

川崎さんには、春日市を率いていく リーダーとしての資質があります。

春日市はコミュニティスクールなど市民力が高い。その市民力を最大限に引き出すのがリーダーとしての最大の仕事です。私がご一緒したオンライン勉強会やフォーラムでの川崎さんの働きぶりはリーダーに値するものでした。私は川崎さんの今回の決断を心から支持し、応援します。



早稲田大学名誉教授
早稲田大学 マニフェスト研究所顧問 **北川 正恭**

川崎さんは、人の気持ちに寄り添い、 街づくりを進めてくれる方です。

自治会長時代から先駆的な事業をいくつも推進され、特に「通学合宿」は子ども達へ新たな体験を与え、地域で子どもを育む素晴らしい事業でした。その経験や知識は皆様の身近な問題にも精通し、市政への提言者として力を発揮していました。新しい春日市の街づくりに必ずお役に立つ方です。自信をもって推薦します。



福岡県議会議員
スポーツ立県調査特別委員長 **松尾 よしみつ**

川崎さんの魅力は企画力と行動力です。

閉塞感漂う中、春日市のみなさんに笑顔をプレゼントできるのは川崎さんしかいません。川崎さんの企画力、行動力に期待します。街づくりに必要なのは新しい発想と失敗を恐れない行動力です。私は川崎さんを応援しています。



前武雄市長
関西学院大学 客員教授 **樋渡 啓祐**

ご挨拶

皆様のご支援を頂きながら、「かすが、新時代へ」をスローガンに、新たなチャレンジを決意しました。市民との対話を重視し、教育・子育て・地域・環境・健康など幅広く市政に声を届けて参りました。今後はその実行力で市民福祉向上の為に力を尽くします。ご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



かわさき英彦 後援会会長 **藤田 俊郎**

春日市のこと、学校のこと、
地域のこと、どんなことでも構いません。

皆さまの声をお寄せください！

かわさき英彦後援会

春日市岡本4-6「森のルーチェ」2F
TEL.092-581-8181 FAX.092-583-7112
かわさき英彦(直通).090-8915-8397
ホームページ：<http://khx.jp>

日々の活動の様子を SNSで発信中！

QRコードを
読み込んで
ぜひご覧ください！

